

# タイヤ関連機 製造強化

## 小野谷機工(越前市) 新工場、社屋が完成

タイヤ関連機器製造の小野谷機工(本社越前市家久町、三村健二社長)が敷地内で建設を進めていた新社屋と新工場が完成し25日、同社で落成記念式典が開かれた。新工場に加工機械を集約し、製造工

程を効率化することで、タイヤメンテナンス関連機械の増産体制を整えた。

12号棟となる新工場には、金属部品を切削加工するNC旋盤11台とマシンングセンター(MC)2台を既存工場から

移設した。旋盤とMCの両機能を備えた最新複合機1台も導入。機械加工の専門工場とすることで作業動線が向上し、製造能力が15%ほどアップするという。

鉄骨造り一部2階建て、延べ床面積1500平方メートル。2階には100人収容の社員食堂を設けた。加工機械を移設したことで空いた工場は組み立て機能を強化させる。

事務棟となる新社屋は、1階がバリアフリーのワンフロア構造。鉄骨造り2階建て延べ床面積800平方メートルで、2階に女性社員の保健室を設けた。2階から工場棟の食堂へ行き来できる。

記念式典で三村義雄社長は「大型車両がある所に向いてタイヤを脱着するロードサービスカーなど、オンリーワンの機械は多くの受注を抱えている。生産能力の向上で顧客ニーズに早期に応えたい」とあいさつ。山田賢一副知事



最新鋭の旋盤機を導入した小野谷機工の新工場＝25日、越前市家久町



小野谷機工の新社屋、新工場完成を祝いテープカットする来賓ら

らがテープカットし、完成を祝った。関係者、来賓約100人が新社屋、新工場を見学した。  
(奥出剛士)